**伝染性紅斑**

かぜ様症状を認めた後に顔面、頬部に少しもり上がった紅斑がみられる疾患である。

その状態からリンゴ病とも呼ばれている。

**病原体**：ヒトパルボウイルス（ＨＰＶ）Ｂ１９

**潜伏期間**：感染後17～18日で特有の発疹を認める。ウイルスの排泄期間は発疹の出現する

１～２週間前の数日間といわれる。

**感染経路**：主として飛沫感染である。ウイルス血症の期間の輸血による感染の報告もある。

**症状**：かぜ様症状と引き続きみられる顔面の特徴的な紅斑である。発疹は顔面頬部のびまん性紅斑と四肢伸側に

レース状、網目状紅斑が出現する。一旦消失して再び発疹が２～３週間後に出現することもある。掻痒感を

訴えることもある。合併症として溶血性貧血、血小板減少性紫斑病や関節炎を起こすことがある。また妊婦の

罹患により胎児死亡（胎児水腫）が起こることがあるので注意を要する。

**罹患年齢**：子どもに多い。小学校で流行することが多い。

**治療方法**：対症療法である。通常は治療を必要としない。

**予防方法**：感染力は弱く、発疹期にはウイルス排泄はないと考えられるので、飛沫感染症としての一般的な予防方法が

大切である。

**登校基準**：発疹期には感染力はほとんど消失していると考えられるので、発疹のみで全身状態のよい者は登校可能と

考えられる。ただし急性期には症状の変化に注意しておく必要がある。